

開催報告

第24回日本医療マネジメント学会学術総会

第24回日本医療マネジメント学会学術総会

会長 大西祥男

(加古川中央市民病院院長)

第24回日本医療マネジメント学会学術総会を2022年7月8日(金)・9日(土)に、神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場にて開催させていただきました。兵庫県での開催は初めてとなります。学術総会としては2年ぶりの現地開催となりましたが、新型コロナウイルス感染症がなかなか終息しないこともあり、会期後のオンデマンド配信も行うハイブリッド開催といたしました。現地開催に当たっては、6月に入り新型コロナウイルス感染者数が漸増する状況に鑑み、急遽会場の人数制限を厳しくしたり、中継会場を設置したりするなど、コロナ対策にも十分に留意しました。

関係各位のご尽力により、事前参加登録者数は2,500名を超え、当日参加者が約1,300名、オンデマンド参加登録が約400名と合計4,200名を超える皆様に参加登録していただき、会期後のオンデマンド配信にも9,462件という多数のアクセスがありました。多くの皆様にご参加・ご視聴いただき厚く御礼申し上げます。

さて、この2年半、世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るい、日本でも“医療崩壊”、“介護崩壊”などが叫ばれ、持続的に医療や介護を提供できるのかが社会で耳目を集めることになりました。そこで、本学術総会のテーマを「持続可能な地域医療を目指して～機能分化・連携と人材マネジメント～」としました。10数年前には医師不足から地域医療崩壊が叫ばれ、今はコロナにより各地で地域医療が危ぶまれ、将来は現役世代の急減に伴い医療・介護人材の不足も懸念されます。医療・介護が安定的に持続性をもって存続すること、つまり

その持続可能性がキーワードと考えています。また、それぞれの地域の実情にあった医療提供体制の構築が求められており、地域医療を維持していく上で大切な体制づくりと人づくりという点からサブテーマを掲げました。

本学術総会では指定演題として、基調講演、会長講演のほか、招待講演4題、特別講演4題、教育講演5題、教育セミナー2題、シンポジウム12題に加え、会長特別企画1題を実施しました。一般演題は口演641題、ポスター188題であり、クリティカルパス6題を加え合計835題が発表されました。最も多く発表されたカテゴリーは「病院運営」であり、日本医療マネジメント学会の柱の一つでもある「医療安全」、昨今の状況より独立したカテゴリーとして設けた「COVID-19」も多数発表されました。そして、感染対策の観点から中止した懇親会に代わり『ウェルカムイベント』として、フルート・チェロ・ハープ演奏と和太鼓によるパフォーマンスを7月8日の夕刻より実施しました。尚、当初予定していた市民公開講座は感染者数が増加傾向にあったため、招待講演4に変更して実施しました。

7月8日の開会式には、片山兵庫県副知事並びに岡田加古川市長にご臨席していただき、ご祝辞を賜りました。お二方からは、「現在の医療福祉分野には課題が山積しており、その解決に本学術総会の成果を期待している」とのお言葉をいただきました。

開会式に続く基調講演では、宮崎久義理事長より「学会活動25年を振り返って、これからを考える」をテーマにご講演いただきました。宮崎理事長は、「日本医療マネジメント学会は良質な医療を提供するために現場からの情報発信を重視している」、「久しぶりの現地開催となったが、多くの方から来てよかったとの声を聞いた」、「オンデマンド配信は今後も活用していくべきであり、委員会活動の活性化にも力を注ぎたい」と今後の学会活動についても詳述されました。

続いて会長講演では大西より「持続可能な地域医療を目指して～官民統合、そしてコロナ禍を経験して～」と題して講演させていただきました。兵庫県立柏原病院(現・兵庫県立丹波医療センター)における立て直しの経験や、官民の統合により発足し現院長を務める加古川中央市民病院での運営経験を踏まえ、持続可能な地域医療を実現するには地域にある医療機関相互の連携強化や医療従事者の確保と育成が必要かつ重要であることを述べていただきました。

開会式
会長挨拶

開会式